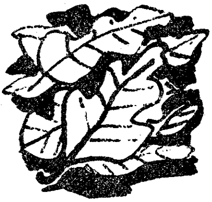
《研究協議》

健康運動・音楽リズム



司会 村田修子
講師 平井信義
戸倉ハル

《運動具について》

（大阪）普通の棒だけのシーソーについて、あれが楽しいだけか、それとも身体の発達に関係するか、子どもの身体にどのように影響するでしょうか。

（神奈川）横棒が一本あって、真中にくいの出ているシーソーの末端のところにくいを打ち、頭にひびくことをさけたけれども、真中のところにのった子どもが手をはさみますので今はかたづけてしまった。

（東京）シーソーはいろいろの種類があり、馬のりになるもののほか、舟型のシーソーとはしごシーソーの三通がある。

　シーソーによってどういう方面の運動機能が発達するかをみていると、舟型の方は運動能力のうちのバランスと身体の平衡性を養うということが一つ。はしごシーソーの方は、懸垂力・筋力・持久力が養われるのではないかと思う。私共の園では舟型シーソーを部屋の中でするとき、待っている子の足をはさみそうなので、大積木をおいて安全地帯のようにしてその上でまつようにして安全なようにしている。

（大阪）遊具が単に興味をみたすということを目的として設置してはいけないか、或いは身体的な面でなくて他の面でもプラスされるかどうか。たとえばシーソーにのるとき、一人と二人では駄目で、二人と二人でつり合うということを考えてみても知的な面で役立つと思うが。

（東京）今の方のおっしゃるように、運動遊具が身体活動に役立つだけのものでなくてもよい。遊具そのものは身体活動・運動活動を助長するものであること。知的方面のみではなく社会性などをもねらう必要がある。然し根本的には、身体能力の発達をねらうのが大きなことだと思う。身体活動をとおして知的な面、社会性、グループで遊ぶということなどを養っていくのがよいと思う。自分の園ではこの二、三年、子供の身体的な面につき一応分析して自分の園にある遊具について、どういう面がどの遊具で養われるか研究してみた。子供の動きは、バランス・柔軟性・動力・共応性・筋力の五つに分類出来ている。平衡性は例えば平均台や平行棒など、柔軟性はジャングルジムなど、動力というのは物をならべてその間をとんだり、重いところから低いところへとびおりたりすることなど、協応性はたま入れとか、まとあてまりつきなど、筋力ははしごシーソー、はん登棒など、又運動器管を発達させるためにどのような遊びをするか、その遊具を使わなくても、子供は平衡性を養うためにどのような遊びをしているかを調べてみました。

村田　では次に何か園にそなえてみたところが大変危険で怪我ばかりして困ったなどというようなことはございませんでしょうか。

（名古屋）四月から入った新らしいこどもが自由遊びのとき、先生の目の届かないところで前からいるこどもに、遊具の点でどのような圧迫を受けるかを知りたいと思って三日間にわたってしらべてみた。男ばかりを運動場でみていますと、運動量の非常に多い子どもは、固定した遊具（ブランコ、すべり台、ジャングル）はそのものの性質がそのまま利用されていることは非常に少なく、横にこいだり、逆に上ったりなどして、逆に危険を楽しんでいることが非常に多かったことによって、固定された遊具を通して新らしい子に与えられる圧迫感は少ない。そのことは一応三日間の結果が出たのでよかったが、運動量の大きい男の子のために、もっと適切な遊具はないかどうか考えて、相撲場を作った。私達は砂をたくさんにした方がころんだ場合などよいと思っていたが、〃砂をたくさんにすると足をくじいたりして危い〃、といわれましたが、実際の結果がまだ分っていないのが残念です。男の子達は木登りを大変好む。木登りは柔軟性を養い、注意力を深める。しかし、躾のために木登りの木を三本選定してある。高さは大人の二倍半位で、先の方も折れないようにしらべてある。それはよいのですが、やはり植物愛護などの点を考えると、仲々むずかしくなります。

村田　色々と出ましたから、ここいらで平井先生に伺ってみましょう。

平井　どのような遊具を与えればどういう運動能力がどの程度に発達するか。今日詳細なデーターはまだありません。殊に勢力のあり余っている子どもの遊具については宿題として園に帰って再検討なさり、色々の機関で発表してほしい。遊具を作っているメーカーにもサジェッションを与えるのも先生の役目と思う。まだまだ研究の途中にあることなので、先生方もこれから大いに研究をお進め下さい。

《病気の予防について》

村田　では予防に関することなどについて何か。

（千葉）チョコレートによる虫下しを毎月一回みんなにのましているが如何なものでしょう。

平井　国氏の七〇―八〇％が蛔虫の保有者です。今日の日本では予防法が少なく、虫の卵をのんではお腹の中で成長させ、最後に虫下しで出してしまうのが現状です。だから先生が虫下しをのませるという配慮は尊敬すべきことです。しかし、どの程度にどんなものをのますかということが問題です。検便して卵をみつけてから、虫下しをのませるというのが常識ですね。然しマイナスでも蛔虫がいることがあるから一応検便はしても、他に蛔虫らしい症状がある子ども（食事をしない、元気がない、青い顔をしているなど）の場合は虫下しをのませる。検便も絶対的でない。いつのませるか、ということは、日本の厚生省でもいわれているとおり、三月に一ぺん位でよいのです。どういう薬を利用するかはいろいろの薬剤が出ていますが含有量としては、一回の包みの中に、〇・〇四―〇・〇五位のサントニンを使い、どうしても、サントニンだけではおりない子どもにはこの中にマクニンを〇・四―〇・五一包に加え三回のませる。午後三時、八時、翌朝の六時。中毒をおこさぬ程度の虫下しをのませる。この位にしないと今の虫にはきき目がない。のませる前後一時間位何もたべさせない方がよい。

質問　乗物酔いの予防について――

一、重曹の注射液が出来ている。

二、重曹をのむことは効果がある。但し一、ほどではない。

質問　肝油を園児にのませることの可否

一、大変によい計画、幼児一日のビタミンAの必要量は二〇〇〇―三〇〇〇国際単位、ビタミンDの必要量は八〇〇単位です。

この単位になるように与えればよいし強力肝油ならば一日三―四摘でよい。肝油を乳児（生後一カ月）から、青年期になるまで、全部の子供にのませることを常識にしたい。

二、多少下痢をしたり、食欲の少なくなる子どもがある。しかし全く心配はいらない。多くの親は、別の下痢、食欲不振をすぐ肝油の責任にする。自分が肝油がきらいだからである。

質問　ぜんそくを起し易い子どもの園での取扱い――

一、日中は出来るだけ戸外あそびにする。園内のほこりがよくない。

二、風の吹いている日は家の中であそばせる。外のほこりがよくない。

三、肝油を与えることをすすめてほしい。

質問　予防注射を幼稚園ですることの可否

一、予防対策として、現下の日本としては大変熱心な思いつき。

二、但し、責任者は医師（園医）がもってくれること。園長が負う形をとってはならない。

三、従って保健所から出張してもらって施行するのがのぞましい。

四、但し、腸チフスの予防注射などは、あとで発熱があるので、園ではその問合せをうけたり処置をきかれたり、注射をしたあとの応援が大変であろう。

《プールの使用について》

質問　プールを作るにあたっての指導法

（東京）砂場の一つを夏プールにするため、水はけをよくしておいて、ある夏砂を出しプールとして使用してみた。そのプールが木蔭にあるのと、水道の水を用いたため水温が低く、四、五分交代で子どもを入れたがすぐ唇を青くした。子どもを水に入れる場合には、水温が高く、日当りのよいところでないと駄目である。プールにした砂場はその後も水はけが悪くじめじめするので衛生上悪いので砂場専門のものに改良した。

村田　或る時きいたのですが、五分以上子どもをプールにいれては害があり、唇が変色してからあげたのではもう遅いということでした。又入る前には必ずお手洗につれていき、シャワーをあびるだけでなく、是非とも石けんを使ってお尻を洗わなくてはならない。ということでした。ではこゝいらで戸倉先生に、みていらっしゃったよその国の状況をお話しして頂きましょう。

《欧米の幼稚園の実情について》――戸倉先生のお話し

先年、欧州及びアメリカに参りました折、見聞（みきき）したことの中、今回は、アメリカとイギリスの幼稚園について私の感じたことを、簡単にお話致します。

幼稚園の機構も、その国の事情が反映されて居り、アメリカでは十人位の子供に二人の保母がついて居るにくらべ欧州でに二十人位の子供に二人の保母がついて居ります。

又、アメリカではあらゆるものが機械化されて居りまして、日本とは大変かけはなれて居ります。

健康教育には、特に留意されて居りました。深さ三十センチのプールが一年を通じて開かれて居り、夏は水、冬はお湯、春秋には生湯を使用して、常に皮膚の鍛錬が行われて居ります。入っている時間は十分程で、子供は各自タオルを持って居り、すべて自分の事は自分で行うようしつけられ、そうした事に先生は手を貸しません。

又子供の育て方については、あらゆる事を家庭とよく連絡をとり、特に小学校へ行くまでに一人でお手洗に行ける様にするとの話でした。又御手洗には何時も係の人が居て、清潔が保たれていました。

イギリスの幼稚園の特長としては、絵を画く部屋、音楽の部屋、粘土細工の部屋といった風に遊具の部屋がはっきり別れて居ることです。

子供は自由に自分の好きな部屋を選ぶことが出来ます。

絵を画く部屋には、筆や紙、クレヨン、絵具が用意されて居り、先生が一人何時も居て、子供の尋ねに対して添削している程度で、指示めいた事は全然行われません。

それは、次の粘土細工の部屋の場合も同じで、子供は自分の思うまゝに行い、先生はそれに対して教える事はせずに、聞かれることに答えるという程度であります。

音楽の部屋にはベビーオルガンが置かれて居り、簡単な曲を単音で弾いたり、又先生は八つの曲を変る変る弾きつゞけ、子供は楽しそうに歌います。

読書の部屋には、本が一杯並べられて居り、自由に好きな本を選ぶことが出来ます。

又人形芝居の部屋には舞台が設けられ、子供は大人しく見て居り、あきると静かに部屋を出るという風で、十一時頃ベルが鳴るまで、それぞれの部屋で過します。

お弁当の時間になると各自の部屋に集まり今日遊んだことを話合います。食事中は大変静かで、ナイフやホークを使う音がすると先生はその方を見るので、子供達はごく静かに頂いていました。食事の時間は大体二〇分で、先生は最後の子供に合わせて喰べる様にしています。早く喰べ終った子供は、外の子供が終るまで静かに待ち、おしゃべりもせず、目顔で友達とほゝえみ合う程度です。

しかし食事の時間が終ると脱兎の如く表へ飛び出していくのでした。

《音楽リズムの指導》

質問　和音指導について経験談をおきかせ願いたい。和音を動きの中にとり入れる。入園当初から和音を定める。たとえば、この和音がなったら蝶々になる…など、一学期中はきく方を主とし、主三和音を用いることや、ドミソのときは手を上へ、レファラのときは手を前にする。などきめておくなど音名遊びについて指導している方におききしたい。

—誰もなし—

戸倉　幼児に音名を教える必要はない。しかし音色とか、その音の価値については知らせておいた方がよい。人の動作で、歩くことは四分音符であり、走ることは八分音符であり、とぶことは附点八分音符であるという、この三つのリズムは理解させて、その音を聞くことによって、動作が連想出来るようになったらいいと思う。しかし、これもあせらずにゆっくりする必要がある。

質問　入園当時三才児が一番自由な表現をする。自由表現をする場合、何でもはうので、これをどう指導したらよいか。——

戸倉　子どもは何でもみたままを表わす。例えば猫のときは四つ足になって這いまわる。そうした子どもが感ずる直接表現は尊重して欲しい。

（東京）自由表現と創作指導を伺いたい——

戸倉　ダンスは身体で自分の思う事柄を表す作文である。自由表現は幼児においてはごく断片的なものからやらせます。特に幼児にとってダンスはまねることですから、ここから出発したいものである。言葉にならない自由な表現から一つの動きにしあげなければならないと思う。

（岡山）作られたおゆうぎを扱うことについて、ご意見をおきかせ下さい。

戸倉　是非良い既成作品を扱わなければならない。なぜなら、幼児のゆうぎは学ぶことはまねることであり、創作は模倣から始まる。そのいみからも良い作品を数多く子どもに与えることは、作品の中にあるリズムと表現方法を知らせ、ダンスを創作させる早道であり、必ずよい過程であります。（

村田　みなさま時間もまいりました。長い間御熱心に色々の問題を討議下さいまして、有難うございました。